

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／栗田 高明

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教育実践力は、大学の講義を受けたり、一ヶ月程度の教育実習を受けたりしただけで、容易に身につくものでない。それらは全く付け焼き刃に過ぎず、なにより教職に就いてからの様々な事象に対応した経験、上司や同僚からのアドバイス、それに加えて教職に対する責任とそれに取り組む真摯な態度の保持が何よりも大事である。教育現場で即座に求められているのは、授業をするうえで必要な知識や教養の蓄積である。そのため毎年度授業を行う上で目指していることであるが、教科(理科)の専門的知識の定着と体系的な理解、科学的思考の向上を目標に、今一度授業内容、順序、構成を見直し、その結果を反映させて上で講義を行う。

2. 点検・評価

講義やゼミ、卒業研究、課題研究の指導では、専門的な内容についても基本的な概念の説明から出発し、正確性を犠牲にすることなく、分かりやすく説明するよう心掛けた。理論や法則の説明についても、先人の科学者の逸話なども取り入れ、学生が興味を持ち、詳細な内容の自学を促す話題を提供した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

オフィースアワーを設け、可能な限り学生の相談に対応する。

2. 点検・評価

講義内容について、研究室に質問に来た学生に対して、丁寧に答えた。また学生実験のレポートについては、各人のレポートを時間を掛けて読み、科学的且つ論理的な文章を書けるように指導した。学生総合相談室相談員として、学生の相談に親身になって対応した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

採択された平成23年度京都大学原子炉実験所共同利用研究(プロジェクト研究:高エネルギー粒子線による絶縁体の照射効果)について、実験所教員とともに積極的に共同で研究を行う。

2. 点検・評価

天然方解石の紫外線励起発光や放射線励起熱発光の実験結果と含有不純物の関係についての研究を進めている。解明できていない点も含めて、来年度も一層研究を進める予定である。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

教員免許状更新講習実施委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

教員免許状更新講習実施委員会委員として毎回委員会に参加し、部としての意見を述べるとともに、部会議、コース会議等で報告した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

特別講演や授業研究会など, 附属学校や外部からの講師, 助言者依頼があれば時間の許す限り引き受ける。また留学生からの相談があれば対応する。

2. 点検・評価

徳島県教育委員会総合教育センターにおいてオンリーワンとくしま学講座において, 9月11日「放射能ってなに?」と題する講演会を行った。11月11日に, 鳴門市板東公民館において, 鳴門市生涯学習まちづくり出前講座「放射線とは」を行った。11月27日には, 徳島県阿南市科学センター青少年の科学の祭典2011徳島大会において, 「みてみよう! ふしぎな光」と題したブースを設け, 150名以上の訪問があった。12月12日には本学自然棟において, 「放射線について正しく理解する」「簡易霧箱の製作と α 線の観察」「放射線を正しく怖がる」と題して, 徳島県高等学校教育研究会理科学会物理及び生物合同研修会を行った。12月14日には本学にて, 徳島県立城南高等学校応用数理科1年生に対して「原子と原子核」に関する特別講義と実験を行った。3月27日には徳島文理大学にて, 平成23年度徳島県高等学校課題研究および科学部研究合同発表会にて審査委員として参加した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本年度は, 東京電力福島第一原子力発電所の事故があり, 専門家として「放射線」「放射能」に関する講演や研修の依頼が多くあり, 可能な限り引き受けた。